

# よくわかる経済指標 「貿易統計」

経済調査部 長谷山 則昭

## 貿易統計とは？～財貨の輸出入動向を調査した統計

「貿易統計」は、財務省から発表されている指標であり、わが国の輸出入動向が把握できる統計である。輸出入のうち、わずかな統計除外貨物（1件あたり20万円以下の少額貨物、見本品、贈与・寄贈品、旅客用品等）を除いた財貨が対象となり、税関を通過する際に提出された輸出入の申告書等を基礎統計としていることから「通関統計」とも呼ばれている。この貿易統計は、各月の上旬、上中旬分の輸出入金額が順次発表されるため月間の貿易動向を事前に知ることができ、月次の速報も翌月下旬には発表されるなど速報性に優れた統計である。その他、品目別、地域（国）別、貿易指数等のデータも利用可能なため、輸出入動向を詳細に分析することが出来る。

輸出入動向を考える上では、金額ベースよりも数量ベースで利用の方が適当である。金額ベースでは、為替や価格変動の影響を受けてしまうからである。例えば原油価格が大幅に上昇している局面では、数量ベースではそれほど増加していなくても金額ベースでは大幅に増加してしまうことがあり、輸出入の実勢が見えにくくなってしまふ。したがって、貿易統計の数量指数等で輸出入動向を判断するのが望ましい。また、貿易統計の輸出入金額（円ベース）を輸出入物価指数で実質化し、季節調整を施した「実質輸出入」（日本銀行発表）も輸出入動向を把握するのに有用である。

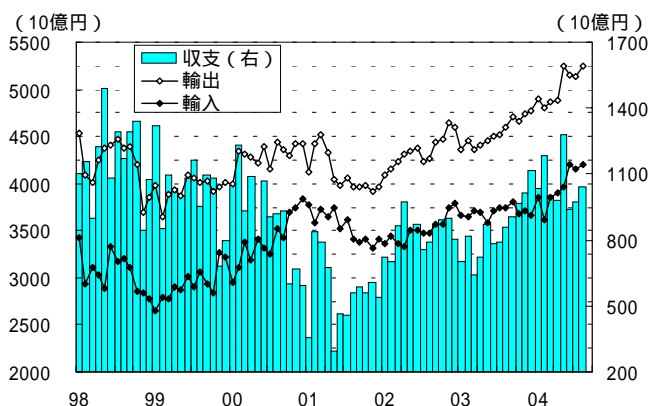
## 諸外国との財貨・サービス・カネの動きが分かる国際収支統計

諸外国との関わりは、財貨の貿易だけではなく、海外旅行の活発化に伴ってサービス取引も厚みを増している。加えて、グローバル化の進展から、カネの取引も飛躍的に増大している。これらを包括的に調査した統計として、財務省と日本銀行から「国際収支統計」が発表されている。この統計は、財貨に加えてサービス・所得の取引、対外資産・負債の増減に関する取引、移転取引なども含まれるため、より総合的に海外経済との関わりを分析する際に利用される。また、国際収支統計はIMF（国際通貨基金）が定めた作成基準に準拠して集計した統計であることから、国際間の比較にも有効である。

## 先行き輸出は拡大ペースが鈍化

足元の輸出動向をみると、アジア向けは底堅く推移しているものの、米国向けが頭打ちの状況となっている。先行きの輸出に関しては、海外経済の景気拡大のモメンタムは減速が示唆されること、アテネ五輪が終わったことで目先はデジタル家電等の需要に反動減が見込まれること等により、拡大ペースは鈍化してくる公算が大きい。また、輸出の減速度合いについては、今後の米国のクリスマス商戦も大きく影響してくると考えられる。当社見通しでは、米国経済は雇用・所得環境の改善により、緩やかな拡大傾向を辿るため、海外経済が大幅に調整することはないと判断している。したがって、日本の輸出は増勢が鈍るものの、高い水準を維持しよう。

資料1 貿易収支（季調値）



資料2 地域別輸出数量指数の推移（3ヶ月移動平均）

